

クイズ：ふれあい科学館プラネタリウムのある場所は地上から高さ104.25m、  
これは世界[ ]位。

# S.P.V つうしん

スペースパークボランティアの会

郡山市ふれあい科学館 スペースパークボランティアの会 会誌

第72号 2024年(令和6年)2月 発行

福島県郡山市駅前2-11-1 郡山市ふれあい科学館内 TEL 024-936-0201



S.P.V ホームページ



## ★鉄道フェスティバルを開催しました

2023年10月7日から9日までの3日間、恒例の「鉄道フェスティバル」が開催されました。案内グループでは8月から同フェスティバルへの参加・協力について協議し、以下の活動を行いました。

展望ロビーにおいては、新入女性会員を中心に「鉄道フェスティバル」のチラシを配り入場を促しました。また、紙芝居実演においては鉄道を題材にした「きかんしゃやえもん」等を取り上げました。「鉄道フェスティバル」会場においては、新入会員の熊田久土さんが自作の鉄道ジオラマとNゲージ車両の運転実演を行いました。ジオラマは畳1畳を超え普通乗用車には載らないので、科学館の職員の方2名が科学館のワゴン車で熊田さんの



の自宅へ赴き搬入しました。精巧に作られたジオラマは親子連れを中心に大人気で、熱心に観察する姿が見られました。特に先頭車両に付けたカメラで前面展望をモニターに映す演出は好評でした。更にマニアの持込車両も加わり車両のバリエーションが豊富になりました。昨年に続き小島撮影の鉄道写真を展示して随時説明を行いました。今回は豪華寝台列車「四季島」特集でした。

(案内グループ：小島)

## ボランティアまつり

3月2日(土)・3日(日)10-15時  
場所：科学館展望ロビー

ミニ講座 3月2日(土)13時~45分程度  
「天体観測所を作りました」(天文・岩崎)

当日会場にて  
スタンプ台紙・・・3つ集めると記念品をもらえます！

当日会場にて  
記念品は天文ブース

案内

科学

天文

スペースパークボランティアの会(S.P.V: Space Park Volunteer)とは・・・郡山駅前・ビッグアイにある科学館スペースパーク(郡山市ふれあい科学館)を拠点に活動する、市民たちによるボランティア会です。幅広い年代の約80名の会員が案内・科学・天文の3グループに分かれ、科学館内の展望ロビーや常設カウンター、駅前の星空観望会のほか、市内各地の公民館活動や学校行事、地域イベントなどに出席し、また生涯学習を目指しています。まちづくりハーモニー賞受賞団体、星のソムリエ多数在籍。新会員常時募集中です。各種イベントの出展も承っております。

クイズのこたえ：1位。地上から世界で一番高い所にあるプラネタリウムとしてギネスブックに登録されています。

### ★天文グループ・新会員さんの紹介

○岩崎さん 星を見始めてから50年も経ちましたが、いまだに天文・宇宙のことは知らないことばかり。都心から郡山市に移り住み、改めて星々の美しさに感動しています。この楽しみを1人でも多くの方に届けられたら嬉しいです。

○内田さん 2015年に星空案内人になり、前年の講習会受講中より2年間ボランティアをしていました。仕事が忙しく中断しましたが、4月よりビッグアイに勤務する事になり再開しました。キャンプ指導等のナイトプログラムに活用できるようスキルアップしたいです。

○菊池さん 星空案内人として、居住地で仲間と月一回は観望会をやろうと活動しています。会では活動していますが、教えていただいたスペースパークで何もしていない！と思い、ボランティアに応募しました。先輩方に教えていただきながら、多くの方が星空の魅力にふれるお手伝いが出来ればと思っております。

○谷口さん 兵庫の西はりま天文台で星空案内人の認定をとり、関西では案内人で集まって勉強会を開いたり、観測所に合宿に行ったりしていました。郡山に移ってからも、同じ趣味の人がいないかと探していたところS.P.Vを見つけ参加してみました。

### ★20周年によせて

S.P.Vは今年、創立20周年を迎えます。初期から活躍している会員より記念の文章をいただきました。

○飯泉さん 平成15年春、ボランティアの募集があり、初夏から活動が始まりました。初めに、お辞儀の仕方等接客についての全体の研修がありました。最初の天文ボランティアとしての活動は、大島小学校での星の宅配便でした。ドキドキしながらの初活動でした。その頃はいつも、ボランティア参加者全員が科学館に集合し、科学館の車で移動し、科学館に戻り反省会をしました。そして、その後街でまた2回目の反省会をしました。その年は火星の大接近の年で、みんなで自主観望会を行いました。その他、個人の天文台や、星の村天文台訪問、星まつり参加などいろいろな自主活動がありました。

○齋藤さん 天文ボランティアの第一期生は、皆さん負けず劣らずの天文オタク？で个性的でした。天文機材のスペシャリストが多く、当時は天体望遠鏡での観望中心のアナログ派の私でしたが、望遠鏡のパソコン制御や、天体写真にのめり込むきっかけを得たのも入会したおかげです。（今は、機材の山に埋もれています・・・） 毎回の観望会や、ボランティアが自主的に開催する観望会や天文の講演会、どれも多くの会員が参加してとても活気がありました。終了後は駅前での意見交換会？と称した打ち上げ会がとても楽しみでした。みなさんそれぞれ昼間は社会的責任のある立場で働き、気苦労が多い中、せめて夜だけは何の気兼ねもなく好きな天体を語り合う、そんな仲間が大好きで、あっという間に20年が過ぎた気がします。

○田辺さん 私がボランティアに入るきっかけは90年代後半に出現した巨大彗星の百武彗星やヘルポップ彗星が現れてその美しさに魅了され天体に興味をもちました。その後、間もなくしてボランティアの募集があり迷わず天文のボランティアに応募しました。当初は要領が分からず観望会で望遠鏡の組立や館職員のサブ的な事をやっていたのですが直ぐに星空案内人の資格認定制度が始まり観望会の企画運営から撤収まで詳しく教えていただき、認定終了時には観望会を立案から計画できるようになりました。ボランティアでの出張観望会として小野町ふれあいの森公園内の広場では毎年夏休みの期間に近隣の町の小学生や子供会などを対象に星空観望会を開催しました。晴れた時はボランティアメンバーが持ち込んだ望遠鏡で人気のある土星や木星などを観望しました。更にレーザーポインターを使い星座や天の川などの星空案内なども行いました。曇りの時はメンバーの宇宙に関する手作り曇りメニューで宇宙の知識やパソコンアプリなどによる木星や土星などをたどる宇宙旅行などみんなで楽しむ事ができました。又、横のつながりによりメンバーによる彗星観望や流星群観望、星の村天文台表敬訪問さらに上海での皆既日食遠征など思い出されます。星の村天文台では夜間にきずな望遠鏡の操作なども自由にさせていただき普段見られない球状星団や系外銀河など美しく観望しました。